ハーヴァード大学図書館（Harvard University Library）

アメリカだけでなく世界でも最大規模のハーヴァード大学図書館は，マサチューセッツ州チャールスタウンの牧師ジョン・ハーヴァードの遺贈による400冊の本により1638年にハーヴァード・カレッジ図書館として開始された。その100年後に5000冊になっていたコレクションも，1764年の火事で貸し出されていた数冊を除いて全焼した。1790年には9000冊に回復したが，植民地時代の大学図書館（ハーヴァード，イェール，プリンストン）の初期の蔵書はほとんどがイギリスからの寄贈であり，宗教書が多かった。独立戦争後に図書館は拡大されたが，19世紀半ばには蔵書はニューヨークのアスター図書館にも及ばなかった。19世紀後半，南北戦争後に大学は急速な発展を遂げる。1856年に図書館長となったジョン・シブレイは各方面で蔵書を伸ばすとともに，目録作業に取りかかり，1861年には若い女性が目録係に加わっていた。ゴア・ホールがカレッジ図書館の本拠であったが，学部はすでにキャンパス内で分散し，科学図書館，動物学図書館ができ，天文台にもコレクションがあった。シブレイの後に1877年に図書館長となったジャスティン・ウインザーは，後のアメリカ図書館協会の初代会長であり，ボストン公共図書館の館長を経験しており，ハーヴァード・カレッジを研究者と学生の利用の場にすることに成功したものの，学内の図書館の分散化を停めることは出来なかった。それだけ各図書館は拡大しつつあったのである。1910年に図書館理事会議長であったアーチボルド・クーリッジは，ハーヴァードを国際的な研究の場にしようと決意し，ロシア研究から始めて，ドイツ研究，ポルトガル研究，ラテン・アメリカ研究から，ついには中国研究のハーヴァード燕京研究所を設立するまでに至った。こうなると，図書館の分散化は防げず，それぞれの学部が指導する各図書館は，19世紀後半に向かってさらに発展していった。1937年から1955年まで図書館長を務めた，ニューヨーク公共図書館出身のキース・メトカーフは，学内の幾多の図書館を建設したことで知られるが，時代に先駆けてマイクロ資料の開発に尽力した。戦後の分散化の方向の延長であって，完成したワイドナー図書館に入ったハーヴァード・カレッジは学部図書館の役割を受け持っており，ケネディ政治図書館なども加わり，大学にはほぼすべての領域で大小さまざまな図書館が運営されている。分類と目録の全学的システムが急務であり，オンライン文書検索情報システム（OASIS）の完成，分類は議会図書館分類への再分類がそれぞれに始まっている。大学の学生数は1万8500名。図書館には1314.3万冊の図書，11万タイトルの雑誌があり，インクナブラは4250冊，楽譜が1.5万点，レコードが10.4万枚，写真が400万枚，マイクロ資料が870万点である。

ブレイ，トーマス（Thomas BRAY, 1658-1730）

イギリスの牧師。シロップシャー州マートンで生まれる。土地の主教に勧められ，オックスフォードのオール・ソウルズ・カレッジに進学。1697年にはマグダーレン・カレッジで神学の学位を取得した。植民地アメリカでの国教会の宣教会設立を命じられたブレイは，1730年にメリーランドに渡った。ここの知的文化はいまだ低く，ブレイは図書館設立の必要をロンドンの教団に進言し，メリーランドその他の地方に拠点図書館を設立，相互が目録を利用しあえるようにしていた。彼はボストン，フィラデルフィア，ニューヨークにも図書館を作る計画を進めていたが，その後アメリカに渡ることなく死去したため，植民地の図書館建設は頓挫した。公的資金で建設される図書館などは考えられなかった時代にブレイは近代図書館システムを提案していたのである。彼はアメリカばかりでなく，スコットランドやウェールズに61館の図書館を建設しており，西インド諸島にも図書館を提供した。

フィラデルフィア図書館会社（Library Company of Philadelphia）

1731年にベンジャミン・フランクリンとその仲間が組織した「ジャントー・クラブ」が作った会員制図書館で，会員のほかに一般市民にも利用させていた。1773年から借りていたカーペンター会館では最初の合衆国議会が開かれ，議会にはいまだ図書館がないため，図書館会社は1791年まで議員のためその代わりを務めていた。その後，19世紀の間はさまざまな個人蔵書の寄付があり，なかには7000冊の古書を持つマッケンジー文庫などの寄贈もあった。アメリカの植民地時代および合衆国初期の歴史に関しては抜群の価値を持っており，研究図書館グループにも参加している。第二次大戦後の一時期はフィラデルフィア無料図書館と契約して，その傘下にいたが，その後は独立し，市民が支える財団組織がいまだ名前を変えない図書館の運営に当たっている。1966年にはフィラデルフィア歴史協会に隣接する建物を獲得した。

アメリカ議会図書館（U. S. Library of Congress）

1800年に首都がフィラデルフィアからワシントン特別区に移転するに際して設立された。当初は国会議員だけの図書館であり，その教養を支えるためのものだった。1814年にイギリス軍の攻撃で建物が破壊された後，元大統領トーマス・ジェファーソンの蔵書約6500冊を購入した。第6代館長スパッフォードは蔵書の拡大に務め，引退した1896年には図書37万冊，雑誌が25万冊になっていた。本館の建設には7年がかかり，堂々たる芸術的な殿堂が1896年に実現した。ボストン公共図書館長から1899年に議会図書館長となったパトナムは，40年間の在任中に図書館を真の国立図書館に仕立てあげ，別館も建設した。その後の館長は詩人，学者が務め，1954年からの20年は再び図書館人マンフォードが務め，コンピュータによる目録作成を実現させた。1975年からはアメリカ史研究家のブアスティンが，1987年にはロシア文化史研究家のビリントンが館長として，21世紀に向かう情報化時代の図書館を作りあげた。建物は第三のマディソン・ビルが完成し，議会図書館の機能は，第一に議会の立法活動に奉仕するものだが，広く国民のためにも開かれ，出版物の目録作成を通して図書館界にも寄与している。最大の目録はアメリカ・カナダの約4000館の所蔵図書を網羅した『全国総合目録（*National Union Catalog*）』755冊である。著作権受理局が受け入れる納本を主とする蔵書は，2000年現在で約2900万冊であり，そこには約200万冊の日本語・中国語コレクションが含まれており，さらに，スペイン語，ロシア語の蔵書でも知られている。議会図書館は「アメリカーナ」と呼ばれる初期アメリカ史関係資料に熱心で，435万冊の図書や写本を所蔵するが，世界の印刷文化の名だたる保存館でもあって，西欧の中世写本からグーテンベルクの『42行聖書』，インクナブラの見事なコレクションを持っている。ここには「百万塔陀羅尼経」の展示もある。この図書館はアメリカの文化財の宝庫であり，「民衆生活コレクション」には19世紀にまでさかのぼる4万5000時間分の民衆音楽の記録，約63万点のフォーク・ソングが保存されており，アメリカ映画作品やミュージカル等の舞台芸術の記録，楽譜なども豊富に保管している。さらに，音楽ホールも有し，所蔵するストラデヴァリのバイオリンを使った定期演奏会も市民のために開催される。議会図書館には「図書研究センター」が併設され，出版史の研究も行われている。2000年に創立200周年を迎えたアメリカ議会図書館は，こうしてさまざまな意味で世界の図書館活動を支え，リードしている。

ボストン・アシーニアム（Boston Atheneum）

アメリカ初期の研究図書館・博物館というユニークな図書館で，現在もその性格を保っている。1807年に，『ボストン・レヴュー』という雑誌を刊行していたウィリアム・エマーソンとその仲間の紳士グループが，リヴァプールの「アシーニアム（文芸クラブ）」にならって，ボストン市民のための図書館として創設した。市にはすでに1792年よりボストン図書館協会があったが，大規模な研究図書館が求められていたのである。富裕な市民・会員に支えられ，1821年には蔵書が1.2万冊，1827年には画廊が開設され，1850年には蔵書が5万冊になった。港地区から高級住宅地のビーコン・ヒルに移ったアシーニアムは，二階の広間全体を図書館に充て，階下と三階は美術品の展示場で，当時としては最も優雅な図書館・美術館であった。1856年から1868年まで館長を務めたウィリアム・プールは，雑誌記事索引に取り組んだことで知られるが，最初に女性図書館員を雇った館長としても知られた。プールの後任となったチャールズ・カッターは，図書館の蔵書目録を作り，彼の「辞書体目録規則」の完成につなげた。しかし，20世紀に入ると，経済恐慌と二つの大戦のため経営は苦しくなり，館員の給与は引き下げられた。戦後になってようやく，会員の年会費の見直しと，募金による基金の開設で，会員制は保たれた。研究者には公開しており，美術館は市民に公開されている。館の資料は，図書が75万冊，インクナブラが68冊，新聞が7000種，いずれもアメリカ初期の歴史を語る貴重な資料として知られている。

アメリカ国立医学図書館（United States National Library of Medicine）

メリーランド州ベセスダにある。首都ワシントンの外科医総監室に1836年に作られた軍医たちの私的コレクションから始まり，南北戦争後に医学文献の量的増大と収集の必要が認識されて，図書館は急速に拡大した。1865年に軍医総監局図書館長となったジョン・ショー・ビリングスは，書誌学者でもあり，図書館のためにイギリスの書店から徹底的に集めるとともに，各国の医学大学の資料も送らせていた。建物はリンカーン大統領が暗殺されたフォード劇場が充てられたがこれは適当でなく，ビリングズは1885年に大図書館を実現させた。彼はさらに，蔵書目録『索引・目録（*Index Catalogue*）』を刊行し，その主題索引の詳細さは医学研究者の注目の的となった。さらに彼は世界の医学文献を収録した『医学索引（*Index Medicus*）』を刊行したが，これらは講読者が増えず，当初は苦戦した。しかし，次第にその意義が認められるようになり，医学文献の探索トゥールとして最大のものとなったが，同時にこの仕事は図書館員を単なる図書の奉仕者でなく，索引の作り手に変えていた。ビリングスは1895年に引退したが，後継者たちは彼の意思を受け継いだ。第二次大戦以後に館長となったフランク・ロジャースは，医学文献の分析・検索システム「メドラース」およびそのオンライン・システム「メドライン」を実現させ，世界の医学図書館界の中心となっている。図書館の蔵書は現在約230万冊，雑誌が2.1万タイトル，ビデオが6.5万点，マイクロ資料が51万点である。図書館は国内全体を8つの地域に分けて統括しており，館内にはいくつもの医学・生医学の研究室や実験室がある。出版物には1865年から1993年にかけて28冊で刊行した『医学史文献目録（*Bibliography of the History of Medicine*）』その他がある。

サウス・カロライナ大学図書館（University of South Carolina Libraries）

1801年にサウス・カロライナ州のドライトン知事の提案が議会で承認され，大学と同時に図書館も出来た。図書館は，アメリカでも最初の独立した建物であり，現在はチャペルとなって残されている。州議会も歴代知事も図書館を支援し，1833年には議会がオーデュボンから購入した『アメリカの鳥（*Birds of America*）』の原版を寄贈。南北戦争以前にこの図書館はすでに稀覯書と蔵書のコレクションを作り上げ，1840年には南部的な建築様式の中央図書館が建っていた。しかし，南北戦争での敗北により，サウス・カロライナは戦火で破壊され，復興に時間がかかると図書館の発展は停滞した。ようやく立ち直ったのは19世紀の末からであり，その後は，再び州政府の肩入れで図書館は拡大を続け，1975年には蔵書が500万冊に達して，研究図書館協会に加盟できた。分類は1898年よりカッター分類を採用していたが，1923年にはデューイの十進分類に変更し，1968年にはさらに議会図書館分類に変えて，長い時間をかけて変更の仕事に取り組んでいた。1974年に開発したペン・タッチの貸出しシステムは評判が良い。現在の蔵書数は約700万冊。大学には8つのキャンパスがあり，学生数は3万7319名。

ボストン公共図書館（Boston Public Library）

図書館法に基づくアメリカ最初の公共図書館となったボストン公共図書館は，1848年にマサチューセッツの州法により設置が決まった。すでに1841年より図書館の構想を持っており，ハーヴァード大学の教授だったジョージ・ティクナーは州知事エドワード・エヴァレットを動かし，法案の決定に尽力していた。ティクナーが1852年に書いた図書館理事会の報告書は，公共図書館の教育的機能をはっきり述べていた。1854年にアダムズ学校の一部で開館した図書館は，最初から日曜を除く毎日，12時間を開館していた。最初の6か月で登録者が6590名，貸出が3万5389冊で，一人一冊の貸出規則から見てこの数字は驚くべきものであった。1855年に新館が完成した時には，蔵書は20万冊になっていた。1858年には監督者（館長）を任命することが決まり，ブラウン大学図書館のチャールズ・ジューエットが任命された。1858年から1861年にかけて完成した二階建ての本建築とそこの7万冊の蔵書構築がジューエットの仕事で，1867年の死の直前には新着図書案内の刊行を実現していた。1867年に後を継いで館長に就任したのはジャスティン・ウィンザーで，館内の環境を改善するとともに，1870年にはアメリカでも最初の図書館分館を作り，続く4年でさらに5館を増やした。1876年にアメリカ図書館協会長になっていたウィンザーも，予算削減と給与の見直しという同年の理事会の決定の結果，ハーヴァード大学図書館長になってボストンから去った。その後，委員会体制の管理が続き，1887年にようやく次の新館の案が決定した。1932年に館長となったミルトン・ロードは，経済不況の時期に悪戦苦闘を続け，戦後には左翼文献の図書館からの排除という「検閲」と闘わねばならなかった。膨大な蔵書量のため，電算化は遅れて出発したものの，この伝統ある大図書館はその地位を守って活動を続けている。蔵書は約700万冊，雑誌が2.9万タイトルで，中世写本が200冊，楽譜が12万枚，映画・ビデオが2.7万点，マイクロ資料を480万点所蔵している。

アメリカ図書館協会（American Library Association）

アメリカ合衆国のあらゆる種類の図書館（公共，大学，専門機関，軍隊，病院，刑務所その他）を網羅した最大の図書館関係団体であり，会員数は総計6万1103名（2000年8月現在）。アメリカの独立100周年の1876年にフィラデルフィアのペンシルヴェニア歴史協会に集まった図書館員103名（うち女性は13名）の決議により成立，初代会長にジャスティン・ウィンザー，書記に若いメルヴィル・デューイを選出した。図書館員の団体はすでに1853年からあったが，南北戦争のために正規の団体にはならなかった。協会は19世紀のうちに拡大を続け，この時期はアメリカの公共図書館がカーネギー財団の支援で館数を延ばしており，女性図書館員の進出が目ざましかった。1911年には最初の女性会長を選出した。第一次世界大戦期に協会はヨーロッパ戦線の兵士たちに図書を送り，国外各地に図書館を作る計画を実行し，国民的な支持を得た。20世紀初頭，大きくなった組織からアメリカ書誌学協会，アメリカ法学図書館協会，専門図書館協議会が次々に独立していった。創設50周年の1926年，カーネギー財団は図書館学教育と協会のプログラム強化のために400万ドルを寄付し，それから1930年代にかけて，事務局長カール・マイラムのもと協会は組織的にも強力な基盤を作りあげた。経済恐慌は図書館の世界にも影響をもたらし，協会ではそれ以後，連邦政府からの資金援助を求める運動がはじまっている。同時に協会を中心にした「言論の自由」を護る運動は，1939年の「図書館権利憲章」の採択につながった。人権問題も戦前からすでに協会の重要な活動であり，1936年のリッチモンド図書館大会では，黒人図書館員の宿泊による差別が問題化し，協会はこうした規制のある都市では大会を開催しないことに決め，その後しばらくは南部の州で大会は開かれなかった。市民権運動の燃えあがりを反映して，1972年にはロバート・エッジワースが黒人で初めての事務局長となり，1976年にはクララ・ジョーンズが最初の黒人会長に選出された。第二次大戦後の図書館協会は，組織の拡大が続き，複雑になった機構の見直しと事務局の移転問題，情報化時代への対処に追われている。現在の組織は，全会員の郵送による投票で選ばれた理事会が中心となっている。2000年8月現在，理事は182名で，うち100名が投票による選出者，11名が協会の11の常置委員会からの代表，53名が各州支部（50州とワシントン特別区，グアム，ヴァーシジン諸島）からの選出，そして会長，前会長，事務局長，財務担当などである。理事の任期は三年。最終的な決議の場である図書館大会は毎年夏の時期に各地で交代に開催され，イギリスとの共同開催もあるが，カナダとの共同開催はしばしばあり，ここは外国とは見なされていない。2003年にはモントリオールで開催された。通常1月に開かれる「冬季会議」は，場所はシカゴで，各委員会と協会事務局の調整などに当てられている。会長の任期は，初期には数年のこともあったが，20世紀にはいってからは一年の任期で，これを前会長が補佐する。組織の改革は長年にわたる課題であり，何度も改革案が提出されたが，基本的な性格は変化していない。11ある常置委員会は図書館の種類と活動の種類によって分かれ，うちアメリカ学校図書館員協会，カレッジおよび研究図書館協会，公共図書館協会の三つは，協会内の組織であるが，大会を別個に開催している。ほかに「図書館の自由」，「女性の地位」などの委員会は時代の変遷とともに加えられ

てきた。協会会員の約60%が下部委員会に所属している。2000年現在で，60の常置委員会のほかに，課題を横断的に取りあげるラウンドテーブルが18ある。会費は，戦前には所得の段階により分かれていたが，現在では一律であり，時に見直し案が総会で取り上げられる。会員数はニューヨーク州，カリフォルニア州，テキサス州がずばぬけて多い。協会の活動の最大のものは大会の開催であるが，2000年のシカゴ大会は参加者が2万4913名，会議が2500という規模であり，総会を開くのはますます難しくなっている。第二の活動は出版事業で，それぞれの常置委員会での出版もあるが，1966年までに協会は1520タイトルを出版し，この年度の売り上げは99万ドルであった。なかには『参考図書ガイド（*Guide to Reference Books*）』などの長期ベストセラー本もある。雑誌の刊行も会員のための主要月刊雑誌『アメリカの図書館（*American Libraries*）』（2000年の講読者数は2万4000部）は1970年に『ALAブレティン（*ALA Bulletin*）』を引き継いで出されており，他に書評誌書『ブックリスト（*Booklist*）』も出ている。他の活動として，賞や奨学金の授与があり，賞には「コルデコット賞」および「ニューベリー賞」が主であるが，常置委員会から出される賞もある。事務局は，協会発足の当初はボストンに置かれたが，1924年にシカゴ公共図書館が館内に事務局の設置を承認し，その後はシカゴを本拠地とし，1946年には独立の建物を獲得した。協会の活動が拡大され，委員会の多くの事務局も抱えるようになると，手狭まとなり，シカゴの土地を売って首都ワシントンに移転すべきだとの動議が何度か理事会から出されたが，会員の投票決議でその都度否決されてきた。現在ではシカゴの本部のほかに，連邦政府との折衝のためのワシントン事務所，カレッジおよび研究図書館協会の雑誌『チョイス（*Choice*）』を刊行するコネティカット州ミドルタウンの同誌編集部がある。事務局員は2000年現在で164名。協会本部図書館の蔵書は約2.4万冊。1992年の財務統計は，『アメリカ図書館協会世界図書館情報サービス百科事典』第3版（1993）によれば，収入は総計2533万1000ドル，支出は2503万3000ドルで，収入のうち会費が20%，出版物売り上げが40%，大会収入が23%であり，支出のうち人件費が11%，会合費が16%，出版経費が38%であって，経営は概ね順潮である。『国際図書館史事典』に寄稿したメアリー・ギカスは「アメリカ図書館協会は，財政的には健全だが，組織はすべての活動を網羅して複雑なままで21世紀を迎えている」と述べている。図書館の蔵書は2.4万冊。

ジョンズ・ホプキンス大学図書館（Johns Hopkins University Libraries）

ボルティモアの商人ジョンズ・ホプキンスは，ロンドンで金融業者として成功したジョージ・ピーボディが「ボルティモアの文化のため」として音楽院とその図書館および音楽ホールを1857年に寄贈したのに触発され，大学と病院の設立でこれを補うことを決心した。1873年に死去した独身者のホプキンスが残した遺産は700万ドルで，寄付としては当時では最大の金額であった。ダニエル・ギルマンが学長に任命されて，1876年に大学および図書館が出発した。学長は教授たちをリクルートするためヨーロッパに出かけた。発足した大学図書館は，音楽資料の研究コレクションであり，市民には非公開であるが，すでに70万の蔵書を持つピーボディ図書館がさして距離の離れていないところにあったので，1879年にこれと合併し，自分の大学にはまず病院に隣接した医学部を強化することとした。1889年に病院と医学部がジョン・ショー・ビリングスの多大の支援で完成し，医学部は国内の教育の拠点となっていった。大学は19世紀に入って，特に科学方面で順調に拡大してゆき，1916年の蔵書は約20万冊となった。経済恐慌のため1930年代は予算難に苦しんだが，アメリカでも早い時期の「図書館友の会」に支えられていた。第二次大戦後は，医学部その他の研究水準に支えられ，大学は国内でも上位に位置する教育機関となっていた。大学は私立の総合大学で，学生数は1万4724名。図書館の蔵書は現在296.1万冊，雑誌が2.3万タイトル，インクナブラが500冊，地図が21.1万枚，視聴覚資料が3万点，マイクロ資料が400万点。

カーネギー，アンドリュー（Andrew CARNEGIE, 1835-1919）

イギリス生まれの慈善事業家。スコットランドの片田舎の織物職工の小屋で生まれたカーネギーは，時代の波に勝てない父とともにアメリカに移住し，ピッツバーグ近郊に住んで，さまざまな職種と苦労を体験し，1853年から1865年まではペンシルヴェニア鉄道に勤めていた。鉄鋼産業に投資の場を見つけた彼は，その後の36年でカーネギー鋼鉄会社を大きくしていった。彼が資産を築いた理由は，人と時代の変化を見る目に帰することができる。1901年に会社を5億ドルでモーガンに売り渡したカーネギーは，かねてから決心していた慈善事業に資産をつぎこむことにした。なかでも図書館に対する支援は優先順位が高かった。彼が図書館に関心を寄せた理由は，父の影響で幼いころから読書にあこがれていたが，その機会がなかったこと，ピッツバーグという開拓前線の町で移民たちに図書館が提供できる楽しみと知識獲得の場，ここが将来性の最も大きな場所だったからであろう。最初に図書館を寄付したのはスコットランドの田舎町であった。生前に彼はアメリカとイギリスの無料公共図書館に560万ドルの寄付をしていた。主として建築費用の負担であった。折からにアメリカの図書館は発達の第二期を迎えていたため，この寄付による刺激は有効であった。こうした寄付はアメリカの図書館を機能面で変えていた。飾りの多い無駄なスペースの建設は許されなかったからである。さらにカーネギーの寄付行為は繁栄を迎えたアメリカで他の多くの慈善事業家の引き金になっていた。20世紀の初頭に寄付により実現した図書館の数は多い。カーネギーの遺志をついだカーネギー財団は，図書館発展の新たな時期に，さらに実質的な支援を行った。調査と勧告に基づいて，寄付行為の方向転換をおこない，図書館員養成の教育を学問の規律のうえに乗せ，さらに，図書館間の協力の実現のためにアメリカ図書館協会を支援する方向に向かったのである。こうして，1930年代までカーネギー財団による寄付は続いた。

ピッツバーグ・カーネギー図書館（Carnegie Library of Pittsburgh）

アンドリュー・カーネギーの活躍舞台であったピッツバーグは，カーネギーが実現した最初の寄贈図書館であった。1881年に建設資金が決定されたが，市当局が法制に手間どり，図書館は1890年の開館となった。その後の歴史のなかで，この図書館が果たした功績はいくつか挙げられる。歴代の図書館長にはアメリカの図書館界を代表する人物が多く出ていた。エドウィン・アンダーソンとハリソン・クレイヴァーは後にアメリカ図書館協会長になっており，目録のマーガレット・マンもここで働いていた。児童サービスでは名だたる人物を擁していた。この図書館の児童部門は特に知られており，1901年からは館内の児童図書館員養成学校は全国にその先鞭をつけ，後にはピッツバーグ大学の図書館学校に吸収された。1907年開設の視覚障害者図書館もその存在を広く知られていた。現在は18の分館，3台のブックモビルが活動する広域サービス図書館で，蔵書は330.7万冊である。

ニューヨーク公共図書館（New York Public Library）

世界最大の公共図書館システムであり，参考図書館部門と市民サービス部門を併せ持つニューヨーク公共図書館は，1895年に創設され，設立時の性格がそのまま後に引き継がれた。1848年に富豪ジョン・アスターの遺産で設置され，1854年に開設されたアスター図書館は無料公開の場であり，当時ニューヨークにはいまだ公共図書館が他にはなかった。同じくマンハッタンに1870年にできた不動産業者ジェームズ・レノックスのレノックス図書館は2万冊の写本や稀覯書を抱えた，展示中心の本の博物館であった。ニューヨーク州の元知事サミュエル・ティルデンも市民のための公共図書館を設立したいと考えており，1886年の死去の際，そのために遺産を使うよう指示したが，後継者はその実現を遅らせていた。1895年にティルデン財団の仲介でアスター図書館およびレノックス図書館が合体し，ティルデンの個人蔵書も加わって，ニューヨーク公共図書館となることが決まった。この時期はアメリカでは，ハンティントン図書館，ニューベリー図書館，ジョン・クレラー図書館が設立され，続いてピアポントモーガン図書館，フォルジャー・シェークスピア図書館が開設された時期に当たっていた。新興都市ニューヨークの表の顔にすべく，理事会はただちに図書館長の選定に当たり，医学界の大物ジョン・ショウ・ビリングスに白羽の矢をたてた。彼は国立医学図書館の基盤を築き，『医学索引』を軌道に乗せ，図書館員を本の番人から情報処理員に変えていた。ビリングスは理事会の委員の友人でもあったが，彼が実現していた医学博物館が成功していたからであり，大英博物館の名声を目指すニューヨーク公共図書館としてはまことに相応しい人選であった。ビリングスは1897年に『ニューヨーク公共図書館紀要（*Bulletin of the New York Public Library*）』を刊行。世紀の変わり目ころからニューヨークの住民は人種面で大きく変わっていた。ユダヤ系とロシア系の住民が増えていたのである。図書館はこうした住民のルーツを探る部門を1910年代から開設しはじめる。1897年に理事会が州当局に申請したのは図書館建築であり，1911年に5番街42丁目に実現した壮麗な大理石建築は，市の観光地の一つとなった。この地は当時の商業の中心繁華街であり，ニューヨークが下町の方向に発展しエンパイア・ステート・ビルディングが出現したのは，少し後の1930年であった。建物が進行中の1900年代，ニューヨークはマンハッタン地区から拡大され，居住地はブロンクス，クイーンズからスターテン島にまで広がっていた。1901年に傘下に置いた「ニューヨーク無料回覧図書館」が後の貸出部門の出発点であった。加えて，1901年から始まったカーネギー財団の援助は，市内の分館施設の拡大に寄与していたため，1906年までには分館はすべての地区に設立される。ビリングスは1913年に亡くなり，後任は副館長のエドウィン・アンダーソンが継いだ。1934年までその任にあったアンダーソン館長は，コレクションを多方面で拡大するとともに，職員の育成にのりだした。タイタニック号で亡くなった富豪ウィリアム・スペンサーの美術資料が寄贈され，図書館の美術部は誇るべきものとなった。1920年にニューヨーク市のハーレム地区の開発とともに開館した135丁目の分館は，ただちにアフリカ系アメリカ人の活動の場となり，1920年代のハーレム・ルネサンスを産むとともに，この方面の図書館蔵書を目ざましいものとしていた。図書館利用者の数は爆発的に増え，本館の参考室は学生であふれかえり，1930年からは学生の利用を禁止するまでとなった。図書館職員はこの時期に充実し，児童部門のアン・キャロル・ムーア等を擁したスタッフは，1911年から1926年まで続いた館内の図書館員養成コースで教え，図書館界に新鋭を送りこんでいた。1934年に館長となったハリー・ライデンバーグの時代は図書館が方向を変えた時であった。1929年の経済恐慌の影響で，ニューヨークには失業者があふれた。135丁目分館は1926年に黒人コレクターのションバーグ文庫を受け入れて研究の拠点となり，本館の音楽コレクションは58丁目のカーネギー・ホールに近い分館に移された。図書館史学者として知られていたライデンバーグは，予算削減の苦境のなかで，寄贈を募り，当局からの予算獲得に奔走し，建物不足に苦しみつづけた。戦後の1946年，理事会はシカゴ大学の図書館長で大学院図書館学校の主任であったラルフ・ビールズに館長職を任せたが，ビールズは1954年に亡くなって，大きな功績は残せなかった。1955年には下町のドルネズ貸出図書館，1965年のリンカーン・センターの開館にともない，一般コレクションと演劇コレクションが本館から移された。1971年に図書館は他に先駆けてカード目録を廃止し，同時に1971年までの蔵書目録を膨大な印刷目録『ニューヨーク公共図書館参考図書館辞書体目録（*Dictionary Catalog of the Research Library of the New York Public Library, 1911-1971*）』（8冊1979-83）を刊行。1974年にはコロンビア，ハーヴァード，イェールの各大学と組んで，コンソーシアムの研究図書館グループを形成，データベース作成に関与した。1990年代には，場所の問題を抜本的に解決するため，本館から近くのデパートを改造して「学術・産業・商業図書館」を設立，本館の参考コレクションの大半をここに移し，本館の改造に取り組んだ。分館施設の管理本部も本館の向かい側の建物に移動していた。1996年に完成した本館は，もとの優雅な参考室と講堂，展示スペースに生まれ変わっている。図書館はさらに，2001年にはコロンビア大学，プリンストン大学とともに共同保存の書庫を建設し，利用の乏しい資料の保存を決めた。こうして，図書館の膨大な資産を研究のために役立てる方向は続けて追求されている。ニューヨーク公共図書館には研究部門のほかに，市内に85の分館を抱えており，市民へのもう一つの活動が続けられている。図書館全体の蔵書は現在約800万冊，インクナブラを1000冊，地図を42万枚，マイクロ資料を560万冊を所蔵している。